

令和4年度 授業計画書(シラバス)

授業科目名							
東洋医学概論1							
学科・昼夜	学年	学期	担当教員名			実務経験	
鍼灸学科・夜間部	1年	前期	天野 陽介			○	
分野区分	教育課程			講義形式	単位	コマ数	
専門分野	基礎はり学 基礎きゅう学			座学	2	20	
科目概要							
<p>東洋医学には2000年以上の歴史があります。その長い歴史のなかで、自然と人体の関わりや人体の仕組み・働きが捉えられてきました。</p> <p>本科目では、そうして築き上げられた東洋医学理論、すなわち人体観や疾病観などの概論を学びます。</p> <p>本科目で学んだ内容は、2年次以降の東洋医学臨床論などで学ぶ東洋医学的治療論につながっていきます。</p>							
目標							
<b>一般目標(GIO)</b> 本講義を学習することで達成されるべき目標	鍼灸施術に際して東洋医学の理論に基づいた思考で病状の診察と弁別を行うことのできる基礎的能力を養うために、東洋医学概論を学び、東洋医学の特徴、思想、生理と病理の知識を身に付ける。						
<b>到達目標(SBO)</b> 一般目標を達成するために必要な具体的な内容、客観的な指標(合格基準)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 陰陽学説における陰陽の相互関係、および自然界・人体の陰陽分類を理解し、多肢・語群選択問題に答えられる。</li> <li>2. 生理物質(気血津液)と陰陽の生理を理解し、またそれらの病態が分類できるようになり、多肢・語群選択問題に答えられる。</li> <li>3. 五神・五志七情について理解し、多肢・語群選択問題に答えられる。</li> <li>4. 五臓六腑の生理を理解し、多肢・語群選択問題に答えられる。</li> <li>5. 病因を理解し、多肢・語群選択問題に答えられる。</li> <li>6. 五行学説における五行の関係を理解し、および自然界・人体の五行分類を覚え、多肢・</li> </ol>						
履修に必要な予備知識や技能							
はじめて接する考え方や言葉も多いと思います。それらに対する好奇心、それらを身近にするために自分の経験や身の回りのことと結びつける想像力、また、毎回復習するなどコツコツ勉強していく継続力が本科目の履修に必要なことです。							
教科書・参考書							
教科書:『新版 東洋医学概論』、東洋療法学校協会[編]、医道の日本社。 参考書:必要に応じて紹介します。							
受講上の注意							
配布資料はきちんと整理ファイリングしてください。学習状況を確認する小テストを随時行います 授業内容の【同期型】はzoomによるリアルタイムのオンライン授業、【非同期型】は録画配信授業です。							
成績評価方法							
評価方法	定期試験	小テスト (チェックテスト)	レポート	実技試験	プレゼンテーション	その他	(合計)
評価割合(%)	100						100
回数	授業内容			教科書	教材・持ち物		
第1回	【同期型】 ガイダンス(授業の受け方)、東洋医学の特徴、身体・病の見方			1-36	教科書・配付資料		
第2回	【非同期型】 東洋医学の思想:陰陽の考え方			181-187	同上		

令和4年度 授業計画書(シラバス)

第3回	【同期型】 人体を陰陽で考えてみる	181-187	同上
第4回	【非同期型】 人体に必要なもの(精・気・血・津液)の働き	38-40,42-46,50-51,54-56	同上
第5回	【非同期型】 精・気・血・津液の病のパターン	40-42,46-49,51-53,56-57	同上
第6回	【同期型】 精・気・血・津液の働きと相互関係、過不足のパターン	38-62	同上
第7回	【非同期型】 人体における陰陽、その病のパターン	68-73	同上
第8回	【同期型】 人体における陰陽の働きと過不足のパターン	68-73	同上
第9回	【非同期型】 東洋医学の臓腑とは、精神・感情とは	62-68,74-77	同上
第10回	【同期型】 中間確認とフィードバック		同上
第11回	【非同期型】 六腑の働き、五臓の働き(脾)	84,94,103,113,123,125.97-100	同上
第12回	【非同期型】 五臓の働き(肝・心)	77-81,87-90	同上
第13回	【非同期型】 五臓の働き(肺・腎)	106-110,115-120	同上
第14回	【同期型】 臓腑の働きのまとめ	84,94,103,113,123,125.97-	同上
第15回	【非同期型】 病の原因(体外からの病の原因)	161-167	同上
第16回	【非同期型】 病の原因(体内からの病の原因)	168-171	同上
第17回	【同期型】 病の原因としくみ	161-180	同上
第18回	【非同期型】 東洋医学の思想:五行の考え方	188-200	同上
第19回	【同期型】 人体を五行で考えてみる	188-200	同上
第20回	定期試験		同上

実務経験と本講義との関連について

北里大学東洋医学総合研究所に上級研究員として勤務、現在、客員研究員。東洋医学関連学会(日本東洋医学会、全日本鍼灸学会、日本伝統鍼灸学会など)の委員として活動。これら東洋医学研究の実務経験をもとに東洋医学概論を講義します。

令和4年度 授業計画書(シラバス)

メールアドレス

amano@nihonisen.ac.jp